

令和2年度 研修計画

R2. 4. 1

1 学校教育目標

「自他を大切にし、未来を生き抜く生徒の育成」

～知・徳・体の調和のとれた、心身共に逞しい生徒～

【目指す学校の姿】

- (1) 生徒にとって 誰もが安心して精一杯学び合える学校
- (2) 保護者にとって 信頼して子どもを任せられる学校
- (3) 教職員にとって 生徒を誇りにできる学校

〈具体的な生徒像〉 「まじめに、楽しく、心合わせて」

- (1) 思いやりと感謝の気持ちを大切にする生徒
- (2) 自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む生徒
- (3) 自主・自律の精神を重んじ、何事にも全力で取り組む生徒
- (4) 挑戦する心を忘れず、最後までやり抜く生徒

2 校内研修（研究）テーマ

主体的・対話的で深い学びの授業の実現

～ 生徒の深い学びにつながる「対話」の実践を通して ～

3 研修（研究）テーマ設定の理由

(1) 新学習指導要領の観点から

令和3年度から全面実施の新学習指導要領では、情報化やグローバル化が進み、ますます予測困難な時代に生きる子供達一人一人を、未来の造り手に育てることが求められている。

「主体的・対話的で深い学び」の必要性が叫ばれ、学校の授業においては、「教師が何を教えるか」という観点からの授業ではなく、「生徒が学ぶことを通して何ができるようになるか」を中心に据えた授業への改革が、最大の課題となっている。

新学習指導要領に盛り込まれている「主体的・対話的で深い学び」は、一般的には、ディスカッションやディベートなど、学習者が課題に対して自ら主体的に意見交換などをしながら取り組むことで、より深い学びへと進んでいくこと、のように言われている。しかし、「主体的・対話的で深い学び」で肝心なところは、学習中に学習者の頭脳や心が課題に対して活発に働くことであって、単に学習形態の模倣に終わってはならない。そこには、教師によって綿密に計画された適切な課題が必須となる。まだ十分な知識を持たない生徒達には、基礎基本の定着を図ることはとても重要である。そのため、毎回の授業で「主体的・対話的で深い学び」を求めることは、難しいが、章や単元の終わりには、聴き、考え、論じ、理解し合える生徒の育成を目指した授業を展開するべきである。

このテーマでの研究は、平成29年度から始まり、一昨年度は道徳にも力を入れながら、「主体的・対話的で深い学び」が行われる授業の研究を行ってきた。そして昨年度と今年度の2年間、本校は流山市の研究指定を受けることとなった。起承転結ではないが、29年度に始めたことが（起）、一昨年度に引き継がれ発展し（承）、昨年度は理論研修も行い（転）、そして今年度で一つ

の形を創り上げる（結）の年度である。

（2）学校教育目標の具現化に関して

「You Tuber」や「e-sports 選手」が将来の夢だ、という子供がいる。昔ながらの「〇〇屋さんになりたい」といった「個人店舗経営」のような夢は、「個人店舗」が「大規模資本」に飲み込まれていく現在、もはや成り立たない夢なのかもしれない。そんな中、「自他を大切にし、未来を生き抜く生徒の育成」をしていくためには、どのような教育活動が求められるのだろうか。

「未来」は今、あまりにも予想がつきづらくなってきているが、そんな「未来」を生き抜くため、これからの日本を担う子どもたちに求められる「実力」とは、どんなものなのだろうか。

- ・「ゼロ」からでも、何かを生み出せる力。
- ・そのために、他者との共存共栄を図れる力。
- ・グローバルかつユニバーサルな社会に対応できる力。
- ・多少の困難には挫けない力。

などなど……。いろいろなことが考えられる。しかし、多くの子供達にとって、将来、他者と共生を図りながら自己実現することができるようになることが求められていることは、おそらく間違いないであろう。このような力をつけるためには、授業の中で聴き、考え、論じ、理解し合う主体的・対話的で深い学びが必要になると思われる。

（3）全国学力状況調査の結果ら課題

- ① 計画的な家庭学習の定着率がやや低めである。
- ② 記述式の問題に対する正答率が、やや低い。
- ③ 「資料の活用」は、やや苦手としている。

（4）研究の仮説

結果的に「一つの正解」を導き出せる能力よりも、それに至るまでの「いろいろな考え方」や「積極的に問題解決に取り組む姿勢」を評価することを念頭においた授業を組み立てていく。教師が意図を持って、生徒に活動させることで、そこに深い「対話」が生まれ、子どもたちの思考が深まっていく過程を創り上げる。

4 今年度の研修の進め方について

（1）10月30日（金）市内の公開研究会（2学期）

- ・各教科で1名授業を展開してもらい、市内の先生方中心に公開する。
- ・ここでの授業展開を研修の一環にして考えてもよい。

（2）校内研究会について

- ・1学期中に2学期の公開に向けての準備のための授業を実施する。
- ・授業実施者は「中堅教諭等資質向上研修」（山田）

（3）〇〇研修に関わる先生方について

- ・初任者研修（松浦先生・早坂先生）3学期に校内での授業公開
- ・2年目研修（吉田先生）教科の授業と道徳の授業の実施
- ・フォローアップ研修Ⅱ（後藤先生・武田先生）教科の授業と道徳の授業の実施
- ・中堅教諭等資質向上研修（山田大輔先生・猪俣先生・山田）授業研修2回

※この他にも授業公開（講師招聘する、しないにかかわらず）が必要な場合は、知らせてください。調整したいと思います。

※10月30日（金）の市内の公開研究会については、4月のはじめの教科部会で授業者を選定していただき、教科全体で指導案や授業について考えてください。

※授業の研修以外にも来年度からはじまる新学習指導要領に向けて、評価や授業の展開についての理論研修をおこないたい。（2学期）

5 日々の研修について

- ① 年間指導計画にそって、見通しを持って授業を進める。
年間指導計画の見直しをお願いいたします。各単元で「〇〇することができるようになる。」という表現で具体的に生徒の変容が明示できるように、各教科部会で検討を重ねてほしいと思います。
(過去の年間指導計画は share → 10研修 → 212年間指導計画 →
令和2年度の年間指導計画から参考に見てみてください。)
※4月の教科部会でしっかりと確認をして、計画的に授業を実行してください。
※4月に変更がある場合には、年間指導計画を修正して、保存しておいてください。
- ② 単元の終末の授業で「何をできるようになるか」を意識し、日々の授業を組み立てていく。
新学習指導要領実施時には、当たり前になっているはずのことですので、教科部会、個人で積み重ねてほしいです。
- ③ 生活記録ノートに、「今日の家庭学習の予定」を記入させ、点検する。
全国学力状況調査で、家庭学習の定着率が低いことが明らかになっています。生活記録に家での学習予定を記入させることで、意識付けが図れるのではないのでしょうか。ひいては、試験前の学習計画表の提出が、必要なくなるかもしれません。
- ④ 生徒にとっても教師にとっても、「適切、適量、継続可能な家庭学習課題」
やらない生徒はできるようになりません。やらせなければやらない生徒もいます。でも、そのようなことが原因の登校しぶりもあります。「宿題をやればできるようになる、成績も上がる。やらなければできなくなる、1になることもある。」は、自己責任なのか……。提出、点検、評価が一体となった「宿題」である必要はないのかもしれない。「これを読んでおくと、次の授業がわかりやすくなるよ」と伝えるだけの「家庭学習課題」も、アリなのかもしれません。
- ⑤ 「関心・意欲・態度」の評価の仕方について
ワークなどを提出させ、点検して、「関心・意欲・態度」の成績に加味する、ということに疑問を感じます。「答えを写しただけのワーク」「ほかの人がやったかもしれない提出物」をその生徒の「関心・意欲・態度」として通知表に反映させているのかもしれない。「研修テーマ」を実現するためにも、「先生は、君たちの〇〇を△△のように評価します」と生徒に知らせることは、「関心・意欲・態度」以外の観点でも大切かと思えます。教科部会での検討をお願いします。
- ⑥ 毎時間、「授業の振り返り」を丁寧に行う。
授業の終わりに簡潔な板書を残したり、「今日の授業では、～について勉強しました。要点としては○や△や☆がありましたね。」とか「今日の内容がどれくらいわかったか、最後にこんな問題をやってみましょう。」など、「振り返り」の方法はさまざまあるかと思えます。日々の授業での積み重ねをお願いいたします。

6 年間計画

4月	運営委員会 職員会議 教科部会 学年会	令和2年度 研修の方向性の検討 令和2年度 研修計画案 教科の努力目標、教科の年間指導計画作成（確認） 教科の進度表の確認、評価・評定について 総合的な学習の時間の年間指導計画作成 学年PC担当者の決定
5月	教科部会 焦点授業予定（山田）	校内研究会の指導案についての検討
6月	教科部会 第1回校内研究会（後藤先生）	校内研究会の指導案についての検討
7月	研究推進委員会(7/) 教科部会	評価・評定確認及び進捗確認、1学期の反省 1学期の反省と2学期以降の研修内容の検討 年間指導計画の検討
8月	小中合同研修会（8/3） 自主研修（各自）	小学校の先生方と合同研修
9月	教科部会(9/) 市内の公開に向けての準備	2学期の努力点の確認。 市内の公開に向けて教科での準備
10月	市内の公開研究会（10/30）	市内の公開研究会に向けての本番
11月	新学習指導要領についての 理論研修（予定）	令和3年度からはじまる、新学習指導要領について、評価の 方法などの理論研修を行う。
12月	研究推進委員会(12/) 教科部会（12/ ）	評価・評定確認及び進捗確認、2学期の反省 2学期の反省と3学期以降の研修内容の検討 年間指導計画検討、指導案検討
1月	教科部会(1/) 第2回校内研究会（研修関係）	3学期の努力点の確認
2月	教科・領域部会	評価・評定確認及び進捗確認、研修のまとめ 年間計画の見直し・修正の話し合い
3月	研究推進委員会(3/) 教科部会	令和3年度の研修の方向性の提示 年間指導計画の見直し、修正

※校内研究会については、年間の行事や学年の行事など、先の見通しを持って、計画を立てて頂き、早めの準備をお願い致します。

7 指導案について

※東葛教育事務所から出される最新の指導案の書き方に合わせる。

書き方が分からない場合は、教科の中や周りの先生に聞くこと。

※研究主題に対する、自身の取り組みについても書くこと。

第○学年○組 △△科学習指導案

指導者 教諭 ○○ ○○

場 所 ○年○組教室

<研究主題>

主体的・対話的で深い学びの授業の実現

～ 生徒の深い学びにつながる「対話」の実践を通して ～

1 単元名 (題材名)

基本 MS 明朝フォント 11 で。ここだけフォント 14 で。

ここは均等割り付けを。(教諭 を忘れる方が多いです)

左のマージンは 25 ミリで、右は 20 ミリで。天地は 25 ミリで。

・これ以降は

2 単元について

(1) 単元観

(2) 生徒の実態 ここで合理的配慮について

(3) 指導観

3 単元の目標

4 指導計画 (○時間扱い)

5 本時の指導

(1) 目標

(2) 展開 (指導・支援 (○) と評価 (◇))

(3) 板書計画

を基本としてお願いいたします。数字、() の数字もこれにならっていただければと思います。

・各ページのフッターに 英語 2-5 (1) のようにページを打ってください。

※ 東葛教育事務所からの指導案参考例に準じて、指導案を作成してください。(過去のものですが)
(share → 10 研修 → 215 指導案形式)

※ 新しい、指導案作成のものが来たらお知らせし、また share の中にデータを入れておきます。